

# 専門学校入学時基礎学力と在学時の学業成績(GPA)との関連

宮崎 栄理子

長野医療衛生専門学校 歯科衛生士学科

**要旨：**専門学校入学時の基礎学力やレディネスは多様であるが、歯科衛生士の資格取得を目標に据えた養成校として、修業年限3年間で学生を国家試験合格まで導くことが最重要課題である。そこで、入学時基礎学力と在学時の学業成績(GPA)との関係について検討を行った結果、中程度の相関関係を認めた。このことから入学時点で基礎学力に不安のある学生については、早期に支援を開始するとともに、目標に向かい学ぶ意欲を高め、維持する指導の必要性が示唆された。

キーワード：基礎学力、学業成績(GPA)、学生支援

## 1 緒言

医療専門職である歯科衛生士は、歯科疾患の予防および口腔衛生の向上を図るため、業務に必要な知識及び技能を有し、歯科衛生士国家試験に合格する必要がある。歯科衛生士養成校においては、国家試験に合格するための知識と、業務に必要な専門的な技術のみならず、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な社会人基礎力も習得しなければならない。

国民の健康維持増進に関する意識の高まりとともに、歯科衛生士に期待されるニーズは、これまで以上に高まっているが、18歳人口の減少に伴い入学者の基礎学力やレディネスには幅が生じており、学力不足による留年や、成績不振に伴う学習意欲の減退から休学、退学となる者もいるのが現状である。入学者の才能を活かし、「伸びしろ」を最大限伸長できるよう、学生支援と指導に活かす教育が求められている。

そこで、A 専門学校歯科衛生士学科卒業生の入学時基礎学力と在学時の学業成績(Grade Point

Average 以下 GPA)について関連の有無を分析し、今後の学生指導に活かす方法を検討した。

## 2 対象

2014(平成26)年度から2018(平成30)年度のA 専門学校歯科衛生士学科入学者112名のうち、1年次に学業成績を残した105名を対象者とした。

## 3 方法

入学時の能力と在学時の学修成果の関係性を取り扱った研究の多くは、独立変数に「高校成績および入試成績」、従属変数に「在学時の学業成績」を用いている。

本研究では、独立変数に「入学時基礎学力」、従属変数に「在学時の学業成績」を用い、Pearsonの相関係数を求めた。統計ソフトはEZR(Easy R)version1.41を使用した。「入学時基礎学力」については、入学試験出願時に提出される高等学校在籍時の学業成績の平均値と高等学校偏差値の積を用いた。「在学時の学業成績」については、1年次の年度GPAを用いた。GPAは、履修科目の成績の1単位あたりの成績平均を数値で表すものである。

成績評価については、「優、良、可、不可(不受験を含む)」の4段階で評価し、可以上で合格となる。また、GP(Grade Point)としては、「優は3.0、良は2.0、可は1.0、不可は0.0」とする。(表1)

区分	成績評価	GPA
合格	優	3.0
	良	2.0
	可	1.0
不合格	不可	0.0

表1 成績評価と GPA

#### (1) GPA 制度の概要および種類等について

##### (a) GPA 制度

GPA(Grade Point Average)とは、履修した科目1単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GPに該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目1単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第3位を切り捨てて表記する。

##### (b) GPA の対象科目

以下の①②以外の授業科目が GPA 算定の対象となる。

##### ① 成績評価のない認定科目

編入学における単位認定科目、入学前に修得した単位認定科目

##### ② 成績評価付きで単位認定した科目

再入学・復学により、既修得科目について成績評価付きで単位認定した科目

##### (c) GPA の種類

GPA は年度ごとに算出したもの(年度 GPA)、入学時から現在の学期まで通算したもの(累積 GPA)があり、計算方法は次のとおり。

##### ① 年度 GPA

当該年度に履修し、成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

##### ② 累積 GPA

入学時から現在の学期までに履修し、成績評価を受けた授業科目全体の GP 合計を入学時からの履修総単位数で除して算出する。

##### (d) 再履修科目の取り扱い

履修した科目が不合格となった場合は、次年度以降に再度同じ科目を履修し、単位を修得することができるが、再履修して単位を修得した場合においても、不合格となった年度の成績は GP=0.0 として累積 GPA 等の算定対象となる。

##### (e) 不正行為により成績評価を受ける資格を喪失した成績の取り扱い

試験不正行為者として当該受験科目およびその定期試験期間に受験したすべての授業科目について、成績評価を受ける資格を喪失した場合には、当該授業科目の成績は 0.0 として扱う。

## 4 結果

入学時基礎学力と在学時の成績の関係性について、相関係数は  $r=0.644$  であり、中程度の相関を認めた。95%信頼区間は 0.517-0.744 である。(図1)

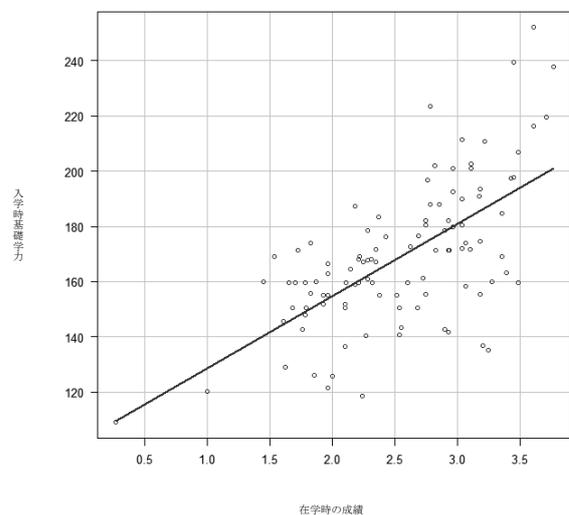


図1 入学時基礎学力と在学時の成績

以上の結果から、入学時基礎学力に不安がある学生についても、それまでの学力に関わらず、入学を機に学び直すことで能力が向上する可能性が示唆された。

## 5 考察

A 専門学校歯科衛生士学科において、学生の多くは、学力考査型入試を経験せずに入っている。そのため、高等学校から専門学校への円滑な接続には、まず学習習慣を身につけることが課題となる。学習に臨む姿勢を再構築し、動機付けすることで、学習の習慣化は可能だと考えられる。

また、A 専門学校歯科衛生士学科における休学、退学の主な理由は、進路選択の不適切と学業不振であった。このことから、歯科衛生士という職業に対する理解を深め、学生が自分の将来に対する希望を持てるように導くことも重要であることがわかる。本研究により入学時基礎学力に不安がある学生については、能力の「伸びしろ」を最大限伸ばさせるためにも、歯科衛生士資格取得という目標に向かい、学ぶ意欲を高める指導の必要性が示された。

A 専門学校歯科衛生士学科では現在、合格者に対する支援策として、入学前から計画的、継続的に自主学習を進められるよう構築された入学前プログラムへの参加を勧奨している。このプログラムでは、12月、3月、4月の計3回にわたり合格者登校日を設ける。第1回目にプログラムの説明を行い、第2回、第3回目を課題提出日とする。担当教員は提出された課題を採点、添削し、学生自身の学びに関する動機づけになるよう前向きなコメントをつけ、個人面談の中でフィードバックする。さらに授業の受け方、専門科目への導入など、入学後、3年間の学びの見通しを立て、学習に臨む姿勢を獲得する機会としている。また、教職員と学生間の交流を通じて入学後の不安を解消する機会にもなっている。このようにして、入学前から手厚く学び方の支援することが入学後の学修を軌道に乗せる鍵になるものと考えられる。

入学後の学生指導としては、成績表にGPAを記載することにより学習深度を周知し、学生が自らの履修計画の点検材料として積極的に活用するこ

とに加え、GPAが低い学生に関しては、修学指導の材料として分析し、指導に活用する。

今後は、2年次以降の学業成績の推移についても検討し、意欲と学業成績の向上に活用できるよう指導方法の検討を重ねたい。

## 利益相反の開示

本研究において開示すべき利益相反はない。

## 文献

[1]阿志賀 大和、大平 芳則：国家試験成績と基礎学力、学業成績、実習成績との関連－本学言語聴覚士養成課程の成績からの考察－。明倫短期大学紀要 2015；181：1-6。

[2]石井 秀宗、椎名 久美子、前田 忠彦、他：大学教員における学生の学力低下意識に影響する諸要因についての検討。行動計量学 2007；341：67-77。

[3]岩崎 保道：大学における休・退学防止の検討－学内組織連携型の学生支援策に注目して－。関西大学高等教育研究 2015；6：81-86。

[4]岩崎 保道、宮嶋 恒二、蔭久 孝政、他：中途退学の防止についての一考察。高知大学教育研究論集 2016；20：49-60。

[5]平澤 明美、渡辺 美幸、佐藤 裕子、他：本学歯科衛生士学科における入学時・在学中・卒業時の成績推移－入学時基礎学力調査との関連－。明倫歯科保健技工学雑誌 2007；101：119。

[6]真鍋 亮：大学生の入学時における能力と学修成果の関連に関する実証的研究－地方私立大学を事例として－。広島大学大学院教育学研究科紀要第三部 2017；66：179-188。

受理日：2021年2月17日

